

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、平成 26 年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を 1 クラス設置して、昨年度で第 3 回目の卒業生を送り出した。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！ - 生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現 - 」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心を持ち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感を持ち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。

ア 生徒の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。

ウ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

授業アンケート結果における授業満足度（平成 28 年度 79.0%、平成 29 年度 80.8%、平成 30 年度 80.3%）を、2021 年度には 83.0%以上にする。

生徒向け学校教育自己診断における「授業の工夫等」（平成 30 年度 48.0%、H26～H30 平均 51.9%）を、2021 年度には 55%以上にする。

生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習者の増加」（平成 30 年度 21.5%、H26～H30 平均 23.5%）を、2021 年度には 25%以上にする。

生徒向け学校教育自己診断における「図書館機能の充実」（平成 30 年度 55.0%、H26～H30 平均 57.1%）を、2021 年度には 60%以上にする。

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

ウ 英語の 4 技能（「聞く・話す・読む・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

インターンシップ参加者（平成 28 年度 65 名、平成 29 年度 42 名、平成 30 年度 32 名）を、学級減を踏まえて 2021 年度には 45 名以上にする。

生徒向け学校教育自己診断における「実習授業満足度」（平成 30 年度 72.5%、H26～H30 平均 75.8%）を、2021 年度には 77%以上にする。

資格取得者の増加を図り、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B]の取得（平成 28 年度 G 3 名・S 8 名、平成 29 年度 G 4 名・S 8 名、平成 30 年度特別賞 1 名、G 4 名・S 7 名・B 2 名）を、学級減を踏まえて 2021 年度には G 5 名・S 10 名・B 5 名以上にする。

## 2 夢と志をもつ生徒の育成

(1) 志学や人権教育・支援教育の育成を踏まえ、豊かな情操と道徳心を培う。

ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。

イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。

エ 情報モラルやセキュリティに関する教育の充実を図る。

生徒向け学校教育自己診断における「人権教育等の充実度」（平成 30 年度 46.5%、H26～H30 平均 46.4%）を、2021 年度には 50%以上にする。

生徒向け学校教育自己診断における「先生の相談対応」（平成 30 年度 52.0%、H26～H30 平均 53.8%）を、2021 年度には 55%以上にする。

問題行動指導（平成 28 年度 14 件・32 名、平成 29 年度 11 件・29 名、平成 30 年度 7 件・16 名）を、2021 年度には件数を一桁台にする。

遅刻件数（平成 28 年度 4,453 件、平成 29 年度 3,268 件、平成 30 年度 3,761 件）を、学級減を踏まえて 2021 年度には 2,300 件以下にする。

転退学率（平成 30 年度 1.72% [ 転学 0.75%、退学 0.97% ]、H25～H29 平均 2.29% [ 転学 1.08%、退学 1.21% ]）を、2021 年度には 1.8%以下にする。

(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、学校行事を含めて生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

イ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、国公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。

ウ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。

エ 進学した卒業生の大学学習状況調査を実施する。

生徒向け学校教育自己診断における「進路に関する行事の充実」（平成 30 年度 67.5%、H26～H30 平均 67.2%）を、2021 年度には 70.0%以上にする。

就職一次合格率（平成 28 年度 82.1% [ 工科平均 82.6% ]、平成 29 年度 83.6% [ 工科平均 84.8% ]、平成 30 年度 84.9% [ 工科平均 86.1% ]）を、2021 年度には工科平均以上にする。

就職希望者内定率（平成 28 年度 100% [ 214 名 ]、平成 29 年度 100% [ 220 名 ]、平成 30 年度 100% [ 203 名 ]）、大学進学希望者内定率（平成 28 年度 95.1% [ 78/82 名 ]、平成 29 年度 98.8% [ 82/83 名 ]、平成 30 年度 93.6% [ 44/47 名 ]）を、2021 年度には共に 100%にする。

3年後の離職率（平成 30 年度 23.8%、H27～H30 平均 23.3%）を、2021 年度には 21%以下にする。

## 3 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 平成 31 年度の旅費縮減を踏まえて、中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の小・中学校等との連携を深め、学校の活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに 1 倍以上確保する。

幼・小・中学校との連携（平成 28 年度 5 回、平成 29 年度 7 回、平成 30 年度 7 回）を、2021 年度には 8 回以上にする。

志願倍率（平成 29 年度入試 [ 総合 ] 1.014 倍 [ 工学 ] 1.725 倍、平成 30 年度入試 [ 総合 ] 0.875 倍 [ 工学 ] 1.625 倍、平成 31 年度入試 [ 総合 ] 0.963 倍 [ 工学 ] 1.275 倍）を、2021 年度には総合募集・工学系ともに 1 倍以上確保する。

(2) 教員の「ものづくり」技術の継承を図るとともに、生徒がものづくり大会等で全国大会出場や入賞できるよう支援を行う。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。

イ マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。

高校生ものづくり大会旋盤部門（近畿大会：平成 28 年度準優勝・第 5 位、平成 29 年度準優勝・第 3 位、平成 30 年度第 5 位）を、2021 年度には全国大会に出場する。

全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会（平成 30 年度優秀賞・理事長特別賞の 2 作品受賞）に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす。

(3) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。

ア 部活動加入率の向上とともに、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

イ 学校課題について五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で検討し、組織的に迅速な実行を図る。

ウ 教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務の ICT 化を進める。

部活動加入率（平成 28 年度 69.0%、平成 29 年度 66.8%、平成 30 年度 64.7%）を、2021 年度には 70%以上にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 11 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>本校の学校教育自己診断は、毎年 1 年生と 3 年生の生徒・保護者及び教職員に対して実施している。 (以下の数値は、肯定的意見「よく・やや当てはまる」の比率を示す。)</p> <p><b>【生徒が主役の学校づくり】</b> &lt;生徒調査&gt; ・「学校満足度」平均 81.5% 1 年 86% (H29:74%,H30:78%)、3 年 77% (H29:83%,H30:77%) ・「淀工生の自覚と誇り」平均 61.0% 1 年 66% (H29:61%,H30:62%)、3 年 56% (H29:76%,H30:63%) ・「文化祭等行事が盛ん」平均 77.0% 1 年 81% (H29:82%,H30:76%)、3 年 73% (H29:82%,H30:81%) ・「部活動が盛ん」平均 75.0% 1 年 80% (H29:80%,H30:78%)、3 年 70% (H29:82%,H30:80%) 学校に対する満足度は、継続的に高いポイントである。 1 年生のポイントが高く、3 年生のポイントが減少傾向にある。</p> <p><b>【学習指導】</b> &lt;生徒調査&gt; ・「授業に意欲的参加」平均 64.5% 1 年 69% (H29:62%,H30:67%)、3 年 60% (H29:70%,H30:60%) ・「実験・実習が興味深い」平均 71.0% 1 年 75% (H29:75%,H30:75%)、3 年 67% (H29:79%,H30:70%) ・「資格取得に熱心」平均 59.5% 1 年 64% (H29:54%,H30:58%)、3 年 55% (H29:67%,H30:54%) ・「家庭学習の実行」平均 23.0% 1 年 20% (H29:21%,H30:17%)、3 年 26% (H29:32%,H30:26%) 授業参加・資格取得は、もう少しモチベーションを上げる工夫が必要。 工科高校の実技科目は、継続的に高いポイントである。 家庭学習に大きな課題が残り、家庭学習の習慣付けと校内での指導の工夫を再検討する必要がある。</p> <p>&lt;教員調査&gt; ・「学習形態の工夫改善」 77% (H29:87%,H30:80%) ・「思考力重視の学習指導」 45% (H29:52%,H30:52%) 工夫改善に努めてはいるが、年々減少傾向である。思考力の育成は今一歩である。今後、組織的な授業改善や学習指導に一層努めたい。</p> <p><b>【生徒指導】</b> &lt;生徒調査&gt; ・「服装などルール・マナーが守られている」平均 71.0% 1 年 84% (H29:63%,H30:69%)、3 年 58% (H29:63%,H30:60%) ・「授業中の携帯電話のマナーは守られている」平均 56.5% 1 年 69% (H29:41%,H30:65%)、3 年 44% (H29:58%,H30:50%) ルールやマナー等の規範意識を高める取り組みが必要である。</p> <p>&lt;教員調査&gt; ・「生徒指導の組織的取組」 53% (H29:63%,H30:56%) 問題行動の防止、問題が生じたとき、更なる組織的な取組が必要。</p> <p><b>【進路指導】</b> &lt;生徒調査&gt; ・「HR で進路や生き方を考える機会が多い」3 年 35% (H29:55%,H30:48%) ・「進路に備えた行事が充実」 3 年 57% (H29:73%,H30:64%) 進路指導、キャリア教育、進路行事ともにより一層の充実が必要である。</p> <p><b>【保護者】</b> ・「工科高校に進学させて良かった」平均 90.5% 1 年 91% (H29:87%,H30:91%)、3 年 90% (H29:97%,H30:93%) 本校に対する保護者の満足度は継続して高い水準を維持している。</p>	<p><b>第 1 回学校運営協議会【R1.7.4】</b> 次年度選抜に向けた広報活動について [意見]HP の閲覧件数の統計をとる。閲覧件数の増減で、広報の加重バランスを検討できる。</p> <p>PBL について [意見]大工大で取り組んでいるが、マンネリ化しやすいので要注意。グループ構成は 6 名以下が望ましい。テーマをいくつか用意しておくことが必要。良いテーマ設定でないと機能しない。</p> <p>IoT について [意見]大学では、機械と IoT、機械と AI、専門と AI など関連付けた学習が求められている。また、基礎としてのプログラミング力が必要とされている。どのように取り入れるかが差別化を図るポイントとなるので、動向に注視していただきたい。</p> <p><b>第 2 回学校運営協議会【R1.11.27】</b> 海外交流について(ベラルーシ派遣団の報告を受けて) [意見]大工大では国際 PBL の一環で、タイやマレーシアに行っている。海外を経験することで、刺激を受け学習意欲が向上し、大学院進学率が增加。次年度に期待したい。</p> <p>工科高校 PBL、総合的な探求の時間、観点別評価に向けて [意見]企業でも多様性のある構成メンバーでものづくりを行っている。混成チームでの取り組みは評価されているので、ぜひ取り組んで欲しい。</p> <p>バイオコークスの取組みについて [意見]ホップ・ステップで終わらないように。取組みのポイントがどこにあるのか不明瞭であり、改善が必要。</p> <p>クラブ活動について [意見]部活動は人格形成に大きく寄与している。加入率を高めて欲しい。目標値は高めに設定して欲しい。</p> <p>ドローンを教材として取り組む予定はないのか。 [意見]部活動ベースでも構わないのでぜひ取り組んで欲しい。淀工カップを開催したり、工科高校同士で大会を開催したりすると面白いと思う。</p> <p><b>第 3 回学校運営協議会【R2.2.17】</b> 離職率について [意見]ものづくりは求人数が多いが、米中の冷え込みや新型ウイルスなどで景気が落ち込むことが予測される。消費税増税で 10 - 12 月の日本の GDP が 6 %ほど落ちた。これら社会情勢の影響が 1 年遅れで求人に影響することが考えられる。景気が悪い局面で文系より理系のニーズが増えはするが、今後の動向に注視して欲しい。</p> <p>授業での ICT 活用について [意見]小・中学校では予算確保に動いているが、実際の活用方法が難しいと考えている。小 1 ~ 中 3 までタブレット端末等導入の動きがあるが、守口市ではまず小 5・6 から始めようとしている。高校での活用も積極的に行って欲しい。</p> <p>来年度実施のキャリア・パスポートについて [意見]長期的には、紙ベースよりも生徒がワープロ入力し、高校のサーバーに保存していく方が良い。手書き PDF は活用しにくく、意味がないと思われる。テキストマイニングという分析方法の研究が進んでおり、ポートフォリオはそちらの方向に向かうと予想される。先を見ているんな試みを行って欲しい。</p> <p>相談室の在り方・方向性 [意見]生徒さんが、気兼ねなく相談できる雰囲気づくりはこれからも大切にして欲しい。</p> <p>専門学科・工学系の課題研究の取組みについて [意見]OB が来てくれるのはありがたいこと。後輩に色々な話をしてやって欲しい。できればパワーポイントで大学での自分の取組みを紹介するなども行ったらどうか。先輩の苦労した経験は、非常に参考になる。今後もぜひ続けて欲しい。</p> <p>将来検討委員会について [意見]非常に重要な委員会である。少人数のワーキンググループで進めるのが良い。これからは頑張ってもらいたい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 学力の定着と、授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業、外部と連携した研修の充実 ウ 家庭学習と学校図書館機能の充実</p> <p>(2) ものづくり教育 ア キャリア教育・職業教育の充実 イ 資格取得への支援 ウ 英語の4技能指導による技術者の育成</p>	<p>(1) ア・授業では、生徒の学習意欲の向上を図り、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、教科指導力の向上を図る。 ・全学年において基礎学力調査等による生徒学力定点観測・分析を行い、課題の克服を図る。 イ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員相互の授業見学、授業力向上研修を進める。 ウ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携により、キャリア教育・職業教育への興味や関心を高める。 イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。 ウ・1,2年生で英語学力調査を実施し、4技能の分析を行い、英語教育の指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの質問9「授業満足度」81%以上 (H30:80.25%) ・学校教育自己診断「授業の工夫等」平均53%以上 (H30:1年44%、3年52%) ・生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査(国数英)の平均計210点以上 (H30:国72.5点、数69.7点、英70.0点、平均計212.3点) イ・相互授業見学1人2回以上 (H30:6・10月授業週間で見学実施) ・公開研究授業の実施(各教科) (H30:6・10月授業週間で実施[教員・保護者対象]) ウ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」平均24%以上 (H30:1年17%、3年26%) ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」平均58%以上 (H30:1年53%、3年57%)</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者数:35名以上 (H30:32名) ・学校教育自己診断「実習授業満足度」平均76%以上 (H30:1年75%、3年70%) イ・ジュニアマイスター:H30取得者数からの増加 (H30:特別1,G4,S7,B2) ウ・英語学力調査の結果から、課題と経年値を把握し、指導の見直しを図る (H30の1年生:聞く・読む・話す 予備的なレベル、書く 入門的なレベル)</p>	<p>(1) ア・授業アンケート結果 平均79.3% ( ) (1回目79.5%、2回目79.1%) ・「授業の工夫等」平均47.5% ( ) (1年生52%、3年生43%) ・1年入学時の平均209.5点 ( ) (国71.2点、数69.0点、英69.4点)</p> <p>イ・6月,10月相互授業見学1人2回以上の実施 ( ) ・6月,10月の公開研究授業の実施 ( ) 保護者見学27名参加 (H30:13名)</p> <p>ウ・「家庭学習者の増加」平均23.0% ( ) (1年生20%、3年生26%) ・「図書館機能の充実」平均63.5% ( ) (1年生75%、3年生52%)</p> <p>(2) ア・インターンシップ35名、14社 ( ) (1年生11名、2年生24名) ・「実習授業満足度」平均71.0% ( ) (1年生75%、3年生67%) イ・ジュニアマイスター ( ) ゴールド3名、シルバー5名、ブロンズ4名 ウ・英検 IBA 1年生実施 ( ) (機材の関係で、業者変更) 総合判定:3級受験レベルの力あり リーディング(読む) 4級レベル リスニング(聞く) 3級レベル ライティング(書く) 3級受験レベル スピーキング(話す) 4級レベル</p>

府立淀川工科高等学校

<p>2 夢と志をもつ生徒の育成</p>	<p>(1)豊かな情操と道徳心 ア 発達段階に応じた人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少を図る エ 情報モラルやセキュリティの啓発に努める  (2)生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現 ウ 離職率調査 エ 大学進学者への学習状況調査</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、教員による相談対応の充実を図る。 ウ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻件数の減少を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 エ・情報に関する授業での指導と、集会時や外部講師による啓発等を行う。  (2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する学校行事の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」平均48%以上 (H30:1年49%、3年44%) イ・学校教育自己診断「先生の相談対応」平均54%以上 (H30:1年52%、3年52%) ウ・問題行動指導:件数一桁台 (H30:7件・16名) ・遅刻件数:2,500件以下 (H30:3,761件) ・転退学率:2.1%以下 (H30:1.72%) エ・外部講師等による啓発:各学年1回 (H30:全学年実施)  (2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」平均68%以上 (H30:1年71%、3年64%) ・就職一次合格率:工科平均以上 (H30:84.9%、工科平均86.1%) イ・就職希望者内定率:100% (H30:就職100%) ・大学進学希望者内定率:100% (H30:進学93.6%) ウ・離職率:22.5%以下 (H30:23.8%、回収率99.1%) エ・調査結果の分析、課題の精査 (H30回収率:51.9%) 課題数・物理 優位性 工業の技術・知識、レポート作成、プレゼン能力</p>	<p>(1) ア・「人権教育等の充実度」平均55.5%( ) (1年生65%、3年生46%) イ・「先生の相談対応」平均52.5%( ) (1年生59%、3年生46%) ウ・問題行動指導21件、32名( ) ・遅刻件数2,750件( ) (H31.2同時期 3,705件) ・転退学率2.20%( ) 転学者11名、1.21% 退学者9名、0.99% エ・外部講師による啓発( ) 全学年 人権学習7/9で実施 1年 宿泊学習5/11で実施  (2) ア・「進路に関する行事の充実」平均65.0%( ) (1年生73%、3年生57%) ・就職一次合格率86.8%、工科平均86.3%( ) イ・就職100%(207/207)( ) ・大学進学92.6%(38/41)( ) 大学入試センター試験受験者数 ゼロ (受験者数:H28 3、H29ゼロ、H30 3 ) ウ・離職率29.4%( ) 就職230名、回答228名(回収率99.1%) エ・校長推薦大学進学者の調査( ) 回収率34.8%(H28:7/25、H29:7/27、H30:10/17) 高校でもっと学習が必要と感じた教科: 数、物理、英語 優位性:工業の技術・知識、レポート作成、プレゼン能力</p>
<p>3 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)広報活動と志願者確保 ア 広報活動の検討・充実 イ 地域との連携 ウ 志願者倍率  (2)ものづくりに対応する教員の育成 ア ものづくり大会・コンテスト等への参加 イ マイコンを利用した大会への参加  (3)有意義な学校生活と学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の対応と迅速な組織体制 ウ 校務のICT化</p>	<p>(1) ア・修学旅行を含め、中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。 イ・地域の小・中学校との連携を深め、学校の活性化を図る。 ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。  (2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。 イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等に出場し、上位入賞をめざす。  (3) ア・部活動加入率を向上させ、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 イ・五役会(校長・教頭・首席・指導教諭・事務長)で将来構想や課題を分析・検討し、学校組織の改革を図る。 ウ・職員室が分散しているため、校務やグループウェア等を活用したICT化を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問(H30:88校)、出前授業(H30:10校)、学校説明会(H30:20件)の精査・充実 イ・幼・小・中学校との連携:7回以上 (H30:7回) ウ・志願者倍率:1倍以上(H31:[総合]0.96倍、[工学]1.28倍、[全体]1.01倍)  (2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 (H30:旋盤が近畿大会第5位、課題研究2作品が高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で優秀賞・理事長特別賞を受賞) イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 (H30:ロボット相撲・パソコン甲子園モバイル部門が全国大会出場)  (3) ア・部活動加入率:67%以上 (H30:64.7%) イ・改革や課題解決による成果 ウ・ICTの更なる促進</p>	<p>(1) ア・訪問45件、出前6校、説明会24件( ) イ・連携7件( ) ラグビー2件、吹奏楽1件、サッカー1件、インターアクト1件、生徒会2件 ウ・1.08倍( ) ([総合]1.02倍、[工学]1.46倍)  (2) ア・ものコン近畿大会旋盤部門優勝、全国大会出場 高校生技術・アイデアコンテスト、2作品が「佳作」として入賞( ) イ・マイコンカー近畿大会 Advanced Class 第3位、全国大会出場 ロボット相撲近畿大会自立型第3、4位、全国大会出場で1台ベスト8 パソコン甲子園モバイル部門は本選に出場できず( )  (3) ア・部活動加入率62.4%( ) (運動部36.9%、文化部25.4%) イ・各種会議で意見交換、1/28第1回将来検討委員会開催( ) ウ・会議室等の予約、行事管理、学校安心メールの活用( )</p>